

全国曹洞宗青年会

SOUSEI

2014.11 No.167



特集

大本山總持寺監院
乙川暎元老師に伺う
全国徒弟研修会への期待

相承



ZENSOUSEI
40th Anniversary

大本山總持寺監院 乙川暎元老師に伺う



全国曹洞宗青年会顧問
大遠忌局
教化出版部書記
(企画研修担当)
松岡広也



全国曹洞宗青年会会長
櫻井尚孝



全国曹洞宗青年会創立40周年記念
大本山總持寺二祖峨山韶願禪師650回大遠忌奉賛

全国徒弟研修会

— with —
国際子ども禅のつどい
～未来へ向けての大いなる足音～

全国徒弟研修会 への期待



全国曹洞宗青年会
40周年記念事業実行委員会
委員長
荒木道宗



全国曹洞宗青年会顧問
世界仏教徒青年連盟副会長
村山博雅



松岡

今日は私、松岡が進行役を務めさせていただきます。まずは櫻井会長から一言挨拶をお願いします。

櫻井

監院老師、本日はお時間をいただき、誠にありがとうございます。今回は来年3月に控えております全国徒弟研修会を中心に、様々なお話を伺えればと思います。

松岡

全国徒弟研修会が来年3月に迫って参りました。ご本山ではどのようなお気持ちでお待ちいただいているでしょうか。

乙川老師

40周年記念事業の一つとしての徒弟研修会ですが、本山としては、徒弟を対象とした事業まで思いが巡っていないかったというのが正直なところでした。全曹青さんからの申し出があり、總持寺で宗門の将来を担う子どもたちに仏心の目覚めを迎えてもらえることを、大変ありがたく思っております。本山としても出来る限りの協力をいたしまして、務めを果たしたいと思えます。監院老師にお話しいただきましたように、本山で徒弟研修会の会場をお引き受けいただけましたこと、櫻井会長はどのように受け止められていますか？

櫻井

今まで全曹青とご本山とで、ここまで密接な事業はなかったのではないかとありがたく思います。二祖峨山禪師の大遠忌と、私ども

松岡

全曹青の40周年との巡り合わせで、私がかねてより切望しておりました青少年事業・全国徒弟研修会を実施させていただけますことを、本当にありがとうございます。第2次でさせていただきます。

松岡

研修会の具体的な実施に取り組みされている荒木委員長はどのようにお感じですか？

荒木

はい。瑩山禪師・峨山禪師の両祖を一体としての長い宗門の歴史を思いますと、大遠忌が時間をかけて実を結ぶような気がしてなりません。大本山總持寺から「どうぞお使い下さい」とのお言葉いただき、私たちがその一翼を担えることが大変ありがたく、ただただ粉骨砕身で取り組む次第でございます。まずもって徒弟研修の本質を外さないように、坐禅・勤行・食事・作務をしつかり行って、さらには全曹青らしい企画として、日比野克彦氏をお招きしての記念制作や、海外からの青少年仏教徒の参加、東日本大震災慰霊法要も全曹青ならではのものとなるように、と思っております。

松岡

来年の全国徒弟研修会は、全曹青の40周年記念事業の中心事業となりました。本山の650回大遠忌の中で、徒弟研修会の位置づけはどのようなものでしょうか。

乙川老師 峨山禪師のご生涯にもあります

が、やはり次の世代に相承していくということは重要です。曹洞宗では過去にも、五哲・二十五哲という優れたお弟子による全国への布教がありました。それを思うに、本山としても時宜にかなった素晴らしい企画を頂戴したとの思いでおります。

松岡

櫻井会長は全曹青会長就任の所信表明においても、徒弟研修会に対する熱い思いを述べられていましたね。

櫻井

はい。弊師が全曹青の会長を務めた30年前、当時の10周年記念事業にも徒弟研修会がありました。小学生の私もこれに参加し、今も非常に強い印象として残っております。船に乗って向かった沖縄で徒弟研修会を行いました。現在、自分自身が会長として全曹青に関わる中で、当時、同じ徒弟研修会に参加した方がたとの再会や協力が生まれました。そのような体験や記憶が、自身の将来に影響する

村山

大きさを思ったとき、なんとか寺院に縁あって生まれた子どもたちのために、また将来につながる仏心の目覚めの機会を作らねばとの思いが芽生えました。私自身も4人の子の親ですが、寺に生まれた彼らの支えになるものを用意したいとの考えから、青少年事業の開催を提案させていただいた次第であります。

第20期が立ち上がってからというものの、どのような徒弟研修ならば全曹青らしいかとの議論を重ねてきたわけですが、それがこのたびご本山よりお力添え賜り、このような素晴らしい事業を企画できましたことを感謝いたしております。全日本仏教青年会の理事長を務めてこられた村山さんは、この3年間、他宗派や他国の仏教徒との交流をお持ちで、様々な視点がお有りと思います。今回の全国徒弟研修会に何か特別な思いをお感じですか。

このたびの徒弟研修会の企画に

ご本山での徒弟研修会は 40周年記念事業の中心



未来の僧侶のために 仏心の目覚めの機会に



あたり、その全曹青らしさとして私は、昨今の日本の急速な国際化を鑑み、これからの次代を担う青年宗侶が向き合っていくべき「国際」というファクターを外してはならないと思われました。

松岡

このことにより、曹洞禪の素晴らしさをアジア仏教界に発信することは、日本仏教全体の確たる地位をアジアに築き上げる一つのきっかけにもなると感じています。

またこの事業によって、特にこの3年間全曹青が作り上げてきた国際に対しての意識を、ご本山という有り難い道場から、凝縮して発信できるのではないかと考えています。

先の第19期では、私も村山さんと共に海外へ赴いて参りましたが、我々が思っている以上に、他国の方がたは日本の宗派に対しての興味と知識があります。そのような自覚を持って、国内外に曹洞宗の教えを発信していくことが肝要だと感じております。また、監院老師におかれましては、この事業を計画する以前から、青年会に対して温かいお言葉をいただいております。

乙川老師

私も青年会で育った人間ですよ。第2代の石附周行会長の時に、当時の事務局長の松倉絃洋さんが新潟に来られて、新潟に青年会がないのはおかしいと言われたのを覚えております。それから長野の宮入宗乗さんが何回も足をお運びになられて、我々と話し合いを重ね

けるグローバルスタンダードな仏教は禅仏教であるということ念頭に、日本に厳格な禅の修行道場と、真摯に修行に打ち込む僧侶達が存在することを、世界最大の仏教徒青年会である WFBY の代表者にご本山での体験として知っていただきたいと思います。

第2代の石附周行会長の時に、当時の事務局長の松倉絃洋さんが新潟に来られて、新潟に青年会がないのはおかしいと言われたのを覚えております。それから長野の宮入宗乗さんが何回も足をお運びになられて、我々と話し合いを重ね

て新潟県青年会を立ち上げました。その後は色々な企画をやらせていただきました。本当に仲間作りが青年会で進んだと思います。私も青年会で育てられた一人ですから、ここらで恩返しをしないと、との思いです。

ご開山の遺偈に「無限靈苗種熟脱」という一節がありますが、あれは非常に象徴的なお言葉です。おそらくは苗が熟れて、もうひとつ成長しようという光景を描写しておられると思うのです。まさにご開山のご意志にかなった計画を、青年会の皆さんがやってくださっていることを嬉しく思うのです。

松岡

なによりありがたいお言葉です。今回の徒弟研修会のポイントを、40周年記念事業実行委員会の荒木委員長に具体的に教えていただきますしよう。

荒木 まず、先の村山さんのお話にもありましたとおり、海外の青少年仏教徒にご参加いただけることです。これは日本側の参加徒弟にも

大きな刺激があると思っております。さらには日比野先生の記念制作で、形として次代へ相承していくものを作らせていただきます。また禅師様にご導師をお勤めいただいたの650回大遠忌法要があり、さらには参加徒弟に絡子を御

親授いただく。この部分が最大のクライマックスであって、主たる部分であると思います。

乙川老師

本山の江川辰三猥下はスケールの大きな方で、大変懐が深くて温かい心を持っておられる。それは側に仕えていて感じるところです。そんな猥下のお人柄が、ひとつひとつ子どもたちに伝わればすばらしいことだなと思います。

松岡

徒弟研修会に参加する子どもたちにとっても、大変に得がたい機会であると思います。次はあらためて国際交流事業の話に移りたいと思います。村山さんからお願ひします。

村山

海外の仏教界という外側から見ただからこそ、曹洞宗の様々な教え

徒弟研修の本質を弁え 時宜に適った事業に



世界から宗教者を招き 曹洞禅の世界発信へと

がとても深く素晴らしいものであるとさらに感じています。その上で、本事業が大変充実した本来的な徒弟研修であることを前提として、宗門徒弟の皆様方が10年後20年後に登っていかなくてはならない国際舞台を作り上げていくのは今しかないと思います。「国際」を徒弟研修会に加えさせていただきました。私は全日仏青を通じてWFBYの役員として海外仏教徒の皆様方と直接コミュニケーションをとり続ける3年間を通して、ようやくその「国際」の意義がわかってきたような気がしています。「国際」には徒弟の皆様方にとって大きなメリットが3つあると思います。まず1つは海外の仏教徒と接すること、語学に対してのモチベーションを高めるといことです。国際化が急速に進み小学校から英語を話すというこれからの日本において、僧侶だから英語など必要ないと断言することはできないと考えています。もう1つは僧侶として



の自信や自尊心をさらに培っていかれるということです。日常生活に仏教が生き、三宝に帰依すること意識する海外仏教徒とのつながりは、敬愛されるべき僧侶としての在り方をいつも思い出させてくれます。そして最後は、日本仏教のブランド性をアジア諸国にさらに構築することによる日本の環境作りです。欧米と大変親しくしてきた日本ですが、これからは経済的立ち位置の転換に伴いアジア諸国との密接な関係が求められてきます。そんな中、アジアの文化的、宗教的な価値意識が日本に広く流入してくることは容易に想像できます。本当にボーダレスな時代が訪れる前に、日本仏教の良さをアジアに打ち出しておくことは、逆輸入的にも日本における徒弟の皆様方が育つ環境をより良きものとするでしょう。

WFBYは、1950年に設立された日本と一番縁の深い世界仏教徒連盟(WFB)の青年部です。こ

の度の徒弟研修会を含む国際交流

プログラムの、そのWEBの公式事業である国際仏教徒青年交換プログラム（IBYE）として承認されました。参加される海外青少年仏教徒の方がたは、各国、各仏教会の代表となりますので、その情報発信力は大変大きなものとなるでしょう。2018年東京近郊で開催される予定の世界仏教徒連盟・世界仏教徒青年連盟世界大会や2020年招致される東京オリンピックでさらに加速する国際化の前に、曹洞宗と日本禅仏教を海外へ広く発信できることを大変嬉しく思います。

松岡

村山さんの事業への熱い思いが伝わってきます。これまでは青年会でも、なかなか国際交流事業に力を注げませんでした。現実的に資金も人脈構築の時間も必要です。宗門として世界へ打ち出して行くというのは語るほど簡単なことではないのですが、曹洞宗が中心になってこの分野を進めたいという思いもあり、今回の企画が生まれたと思います。私も大本山總持寺で安居した一人ですが、安居中には国際禅苑という言葉に耳にしたものです。現在の本山では、国際活動に対して、どのような取り組みを持っておられるかお聞きできま

乙川老師

すか。

私の見るところ、本山としての体系的な国際活動はまだ道半ばです。国際的な禅の布教はあくまでも個のつながりがベースの段階で、組織的な動きにはなっておりません。ですから、「これからは国際的な禅苑活動をしなくてはならない」。この言葉を長年繰り返ししてきた思いがします。当山にも国際室があり、外国語を話せる者もおりますが、あくまでも観光向けのガイダンスとかそういう範囲です。本来は村山さんのように海外の方と熱い心が通うことで、初めて国際的な仕事ができるようになるのだと思います。本山でも先般、海外からの修行僧を受け入れております。そういう意味では少しずつ前進しておる部分もありますが、皆が思い描く国際禅苑にはまだ遠いでしょう。

繰り返しとなりますが、本山でも大遠忌の主旨に相承を謳いながら、具体的な未来に向けての事業が薄い部分がありました。青年会の方がたの徒弟研修会のおかげで面目が立ったという思いです。本山は人材育成の場でもある。まさに相承のテーマにふさわしい素晴らしい仕事を与えて下さったと感謝するものです。

松岡

荒木

ありがたいお言葉に、我々も一層身が引き締まる思いです。これからいよいよ参加者の募集も始まり、具体的な開催に向けて動きが始まります。

はい、基本的な部分、徒弟研修としての常の有り様を考えながら、10年後を見据えた「想い」を伝えられるような内容を描いておられます。全曹青の今期テーマである「繋がる想いが未来を拓く」と、大遠忌の「相承」には同じベクトルが内在しており、まさに時宜にかなった事業と言えるでしょう。全曹青の思いを一つにしまして、邁進して参りたいと思います。

櫻井

今日は監院老師より、瑩山禪師・峨山禪師についてもありがたいお話を伺え、宗門が相承してきた点と点が、徒弟研修会で結ばれるかのような感慨を覚えました。今回のような全国規模での徒弟研修会はおそらくはじめてですし、縁あってお寺に生を受けた師弟が成長していく中で、ひとつの目覚めを感じてもらえる良い機会となります。ご本山からも大なるご支援をいただきながらの研修会ですし、その間口は世界にまで大きく開いておりますので、大勢の方がたにお声かけをして参加を募りたいと願うものです。

村山

私から全国徒弟の皆様方に申し上げたいことは、学校で習っている英語を生かせる場所が、この身近なお寺の世界にちゃんとあるんだということです。また海外の参加者の皆様には、日本仏教に素晴らしい修行の世界があることを知っていただきたいと思います。

松岡

最後に監院老師より、我々青年僧に対してメッセージをいただけないでしょうか。

乙川老師

自らを振り返っても、青年会時代は心身が一番輝いているときです。チャレンジするのが全曹青という組織だと思います。こうして偉そうなことを言っていますが、私も失敗を重ねてきた人間です。全曹青は失敗も許される世代です。恐れることなく、大いなる足音を聞かせて下さい。

全曹青

監院老師、本日は誠にありがとうございました。



日時／平成26年10月1日
場所／大本山總持寺監院寮応接間
記録／全曹青広報委員会

失敗を恐れず
大いなる足音を聞かせよ



平成26年8月豪雨レポート 兵庫県丹波市市島地区の災害状況 ボランティア活動報告



平

成26年8月、台風11号並びに台風12号により、北海道・秋田県・石川県・岐阜県・三重県・京都府・兵庫県・広島県・徳島県・高知県等、日本列島への相次ぐ台風の接近と前線の停滞、持続的な暖かく湿った気流の流入による豪雨のため、全国各地で洪水被害をもたらし、京都府福知山市・兵庫県丹波市・広島県広島市においては大規模な土砂災害をもたらしました。

この状況を受け、兵庫県第二宗務所青年会（以下、兵二曹青）では、兵庫県丹波市において災害復興支援部・曹洞宗東日本大震災支援部分室と連携し、加盟団体をはじめ各団体に協力を仰ぎ、復興支援活動を展開いたしました。

〔被害状況報告〕8月31日時点

全壊家屋44棟、半壊・一部損壊家屋60棟、床上280棟、床下2,156棟、土砂崩れ116カ所、道路・河川の崩落等459カ所。内、兵庫県第二宗務所第2教区8カ寺、第3教区2カ寺、他宗寺院数カ寺において大きな被害が出た。裏山が崩れ位牌堂や本堂・庫裡に大量の土砂が流れ込み、大間には1.5メートル堆積するなど、大きな被害となった。豪雨による川の増水だけでなく、山からの土石流や土砂崩れの被害が多くみられる。

〔活動内容報告〕

8月17日、兵二曹青岡田会長・岸近畿管区理事・全曹青災害復興支援部安達の3名で現地を視察したところ、会員だけでの復

旧作業は難しいと判断し、丹波市春日町榎原の普蔵寺様内に事務局を立ち上げて活動の拠点とし、同日より災害メーリングリストや電話連絡で近畿管区・中国管区等に協力を要請した。

18日より青年会・教区寺院により情報整理を行い、お盆の行事も落ち着いた21日より本格的に活動を開始した。市島町ボランティアセンターが19日に開設され、被害をうけた各寺院へ派遣要請を行ったが、事務所と同じ扱いになることから今は派遣出来ないとの返事をうけ、青年会では各被災寺院の復旧作業にあたることにした。

主な活動場所は第2教区の石像寺・宗福寺・臨川寺・成願寺とし、土砂の撤去や器物の持ち出し、洗浄を行った。土砂の撤去に至っては山からの土砂により大きな石が多く、また大木の流入・倒壊等もあるなか、大雨による避難指示が何度も発令され、中断を余儀なくされ作業は困難を極めた。

断水地域での炊き出し活動も並行して行った。被害が大きく断水の続く前山地区において、炊き出しのニーズがあり検討をするなか、「NPO法人震災がつなぐ全国ネットワーク」の加盟団体である「レスキューストックヤード」が、被災地において炊き出しの検討をしており、同じ加盟団体であるSVAシヤンティ国際ボランティア会の紹介で炊き出し協力の要請を受け、兵二曹青ではすぐさま協働で開催を決定した。開催場所の設定には宗福寺様に調整いただき、無料で珈琲を提供されていた「ひなたほっこカフェ」

兵庫県丹波市復興支援活動団体

(8月18日～9月10日)

【復興支援活動・団体】

- 兵庫県第二宗務所管内青年会員
8月 = 129人
9月 = 48人
- 管内寺院
8月 = 44人
9月 = 11人
計 232人

【復興支援活動・個人】

- 8月 = 165人
9月 = 50人
計 215人

延べ活動人数

合計 447人

【復興支援協力団体】

大本山總持寺、曹洞宗宗務庁、兵庫県第二宗務所、興禅会（兵庫第一宗務所）、京都曹洞宗青年会、大阪府曹洞宗青年会、奈良県曹洞宗青年会、滋賀県曹洞宗青年会、和歌山県曹洞宗青年会、鳥取県曹洞宗青年会、岡山県曹洞宗青年会、愛知第三宗務所青年会、岐阜県曹洞宗青年会、三重県曹洞宗青年会、宮城県曹洞宗青年会、長野県第一宗務所青年会、長野県第二宗務所青年会、和歌山県青年僧の会、小代商工会青年部、丹波市社会福祉協議会

【炊出し主催団体】

兵庫県第二宗務所青年会、NPO 法人レスキューストックヤード

【炊出し協力団体】

ひなたぼっこカフェ、宗福寺、丹波市曹洞宗青年会、市島町仏教会、京都曹洞宗青年会、全国曹洞宗青年会、神戸国際支援機構、丹波市まごころネット、セケ浜ぼっけ倶楽部七友会、日本災害復興学会

【支援物資協力団体】

大本山總持寺、東北地区連絡協議会、森藤食品工業株式会社、個人協力多数

(敬称略・順不同)

誠にありがとうございました。



さまざまをお借りすることができ、各自治会長さまへ挨拶・告知を行い地区の拠点となっている前山コミュニティセンターへも協力を依頼、放送などで呼びかけを行っていただいた。また、ボランティアセンターが遠く高齢で行けない等の声をうけ、支援物資の提供コーナーを設置し、炊き出し活動同様に大変好評をいただいた。

【所感】

この度は多くの皆様にご支援ご協力いただき、誠にありがとうございました。改めて深く感謝申し上げます。現地に入り、被害の大きさに唖然としました。道をふさぐ民家、流された橋、深くえぐれた山肌。寺院では本堂を埋め尽くす土砂の多さ、本堂を流れる川。近くでこのような大きな災害が

発生するとは思いませんでした。とにかく声をかけて協力を仰ぐことが重要でした。8月末というお盆の時期にお手伝いいただけるか不安でしたが、その心配を払拭するように多くの方がたから支援のご返事をいただいたとき、改めてこの全曹青の繋がりに感動したのを覚えています。遠方を何時間もかけてお越しいただき、厳しい現場で黙々と作業いただくお姿に、どれほどの頼もしさとも勇気をいただいたか計り知れません。

現地では土砂の撤去は一段落しましたが、いつまた崩れてくるかも知れないという不安や、再建に向けての資金、農地の整備など問題は山積しています。引き続き、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

文/災害復興支援部コーディネーター兼
全曹青副会長 安達瑞樹

被災寺院からの言葉

8月に京都府福知山市頼光寺様を襲った豪雨・裏山の土砂崩れ。現在は本堂の解体は決まったことですが、まだまだ被害は収まっておりません。この度の災害に遭われた方丈様に直接お言葉をいただきました。

文/全曹青広報委員 田中昭範

「災害は突然にやってくる」とは世間では言うけれど、まさか自分がその身に遭うとは思っていませんでした。

八月十六日の夕刻から降りだした激しい雷雨が一晩中続き、日の変わった夜中に危険を察知し、家族を寺下の離れに避難させ、私だけが寺内に残り様子をうかがっていた。朝の五時頃ようやく激しい雷雨も収まり、ほつとしたのもつかの間、六時過ぎに目の前で裏山の崩壊が起こり、その後2回にわたる大きな崩落により、本堂は傾き、位牌堂は跡形もなく押しつぶされ、庫裡も土砂の流入により室内は川と化していた。

日も改まり、近隣のご住職ご寺族様方が駆けつけて下さり、励ましのお声掛けをいただく中、全曹青の方がたも三々五々お集まりいただき、あつという間に四十人程になった。本堂に残された仏具、庫裡に残された生活用品等々、被災者に気を配りつつ、搬出と保管場所への移動等、速やかに行っていたとき本堂にありがたく、またその後も二回ほど曹青や近隣寺院の方がたにはお世話になり、寺院活動に尽くす必要最小限の事をしていただき、唯々「ありがたい」という感謝の言葉しか出てこない。

被災し心身共に疲れ切っている時こそ、こうした大勢の仲間と接することにより、何気ない会話の中から、復興への「力」を頂戴することができ、自分自身を奮い立たせてくれた。

京都・頼光寺・立身一徳 拜

全国曹洞宗青年会の活動は皆さまの賛助費に支えられております。
この度もご協力いただき誠に有難うございました。

- | | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 299 一山寺 様 | 401 少林寺 様 | 66 大慈寺 様 | ●秋田県 | 94 曹源寺 様 |
| 304 梵音寺 様 | 432 耕田寺 様 | 90 高雲寺 様 | 17 補陀寺 様 | 96 観音寺 様 |
| 370 秀長寺 様 | 440 城國寺 様 | 100 澄月寺 様 | 26 洞泉寺 様 | 257 高臺寺 様 |
| 449 松庵寺 様 | ●岩手県 | 176 海昌寺 様 | 36 自性院 様 | ●北海道第2 |
| 461 正法寺 様 | 4 長松寺 様 | 189 乗照寺 様 | 79 東林寺 様 | 166 東照寺 様 |
| ●宮城県 | 43 中興寺 様 | ●山形県第1 | 157 香積寺 様 | 168 大宝寺 様 |
| 57 満興寺 様 | 123 寶城寺 様 | 5 光禪寺 様 | 192 善福寺 様 | 508 大乘寺 様 |
| 59 清水寺 様 | 196 建高寺 様 | 36 久昌寺 様 | 209 満友寺 様 | ●北海道第3 |
| 76 清涼寺 様 | 199 保壽寺 様 | 241 福昌寺 様 | 216 向川寺 様 | 225 明光寺 様 |
| 113 繁昌院 様 | 290 長泉寺 様 | ●山形県第3 | 246 福城寺 様 | 460 道貫寺 様 |
| 114 東禪寺 様 | 295 東海寺 様 | 466 禪龍寺 様 | 252 長泉寺 様 | |
| 149 喜松院 様 | ●青森県 | 623 歎喜寺 様 | 321 鏡得寺 様 | |
| 252 福巖寺 様 | 38 清涼寺 様 | 659 持地院 様 | 323 恩徳寺 様 | |
| 344 龍澤寺 様 | 39 正法院 様 | 671 海禪寺 様 | ●北海道第1 | |
| 390 西光寺 様 | 44 高沢寺 様 | 708 光浄寺 様 | 27 円通寺 様 | |
| 392 金秀寺 様 | | | 88 玉宝寺 様 | |

ボランティア基金感謝録

平成26年 7 / 1 ~ 9 / 30 取扱い分

- | | | | |
|-------------|------------|------------|-----------|
| 東京都 福昌寺 様 | 静岡県 正法寺 様 | 兵庫県 神光寺 様 | 新潟県 花栄寺 様 |
| 東京都 青松寺 様 | 静岡県 孤雲寺 様 | 兵庫県 向榮寺 様 | 福島県 小国寺 様 |
| 東京都 豪徳寺 様 | 静岡県 曹洞院 様 | 兵庫県 満福寺 様 | 福島県 藏円寺 様 |
| 東京都 清巖寺 様 | 静岡県 長光寺 様 | 兵庫県 滝沢龍光 様 | 福島県 覚音寺 様 |
| 神奈川県 泉秋寺 様 | 静岡県 元長寺 様 | 兵庫県 三宝院 様 | 福島県 法輪寺 様 |
| 神奈川県 常泉寺 様 | 静岡県 正泉寺 様 | 兵庫県 瑠璃寺 様 | 福島県 正法寺 様 |
| 神奈川県 龍寶寺 様 | 愛知県 薬師寺 様 | 岡山県 清渡寺 様 | 宮城県 少林寺 様 |
| 神奈川県 西有寺 様 | 愛知県 全久院 様 | 広島県 聖光寺 様 | 宮城県 観音寺 様 |
| 神奈川県 中野東禪 様 | 愛知県 寶珠院 様 | 広島県 雲龍寺 様 | 宮城県 城國寺 様 |
| 神奈川県 東照寺 様 | 愛知県 林光院 様 | 広島県 西福寺 様 | 宮城県 繁昌院 様 |
| 埼玉県 廣徳院 様 | 愛知県 成福寺 様 | 鳥取県 雲光寺 様 | 宮城県 清水寺 様 |
| 埼玉県 長泉寺 様 | 愛知県 祥雲寺 様 | 鳥取県 雲光寺 様 | 宮城県 金秀寺 様 |
| 群馬県 心洞寺 様 | 愛知県 地藏寺 様 | 鳥取県 法藏寺 様 | 岩手県 長松寺 様 |
| 群馬県 稲川俊昭 様 | 愛知県 花井寺 様 | 鳥根県 金子卓雄 様 | 岩手県 東海寺 様 |
| 群馬県 元景寺 様 | 愛知県 慈光院 様 | 鳥根県 禅覺寺 様 | 岩手県 澄月寺 様 |
| 群馬県 光性寺 様 | 愛知県 成福寺 様 | 愛媛県 長命寺 様 | 青森県 海昌寺 様 |
| 茨城県 龍心寺 様 | 愛知県 廣濟寺 様 | 愛媛県 明應寺 様 | 青森県 高沢寺 様 |
| 茨城県 宝積寺 様 | 愛知県 觀昌寺 様 | 大分県 善幸寺 様 | 山形県 光禪寺 様 |
| 茨城県 定林寺 様 | 愛知県 報恩寺 様 | 佐賀県 渡辺賀洋 様 | 秋田県 長泉寺 様 |
| 茨城県 龍泉院 様 | 岐阜県 林陽寺 様 | 熊本県 含藏寺 様 | 秋田県 東林寺 様 |
| 千葉県 最勝福寺 様 | 岐阜県 勝林寺 様 | 宮崎県 如法寺 様 | 秋田県 補陀寺 様 |
| 千葉県 満藏寺 様 | 三重県 宝泉院 様 | 長野県 長秀院 様 | 秋田県 香積寺 様 |
| 千葉県 海福寺 様 | 三重県 安楽寺 様 | 長野県 長照寺 様 | 北海道 東照寺 様 |
| 千葉県 慶林寺 様 | 三重県 大蓮寺 様 | 長野県 宗湖寺 様 | 北海道 高臺寺 様 |
| 千葉県 東昌寺 様 | 三重県 四天王寺 様 | 長野県 徳應院 様 | 北海道 大宝寺 様 |
| 静岡県 満願寺 様 | 京都府 龍猷寺 様 | 福井県 長泉寺 様 | 北海道 玉宝寺 様 |
| 静岡県 成道寺 様 | 京都府 禪福寺 様 | 富山県 祇樹寺 様 | 北海道 道貫寺 様 |
| 静岡県 玉泉寺 様 | 京都府 岩屋寺 様 | 新潟県 雲泉寺 様 | |
| 静岡県 成因寺 様 | 京都府 善光寺 様 | 新潟県 太総寺 様 | リンコウイン 様 |
| 静岡県 十輪寺 様 | 京都府 圓覺寺 様 | 新潟県 東林寺 様 | |
| 静岡県 春林院 様 | 大阪府 臨南寺 様 | 新潟県 正圓寺 様 | |
| 静岡県 洞天寺 様 | 大阪府 大廣寺 様 | 新潟県 轉輪寺 様 | |
| 静岡県 定光寺 様 | 奈良県 景德寺 様 | 新潟県 雲洞庵 様 | |

賛助費浄納御芳名簿

平成26年 7 / 1 ~ 9 / 30 取扱い分

●東京都

18 大泉寺 様
30 豪徳寺 様
34 福昌寺 様
57 功雲院 様
177 清巖寺 様
239 宗保院 様
294 観栖寺 様
356 宝蔵寺 様
380 萬福寺 様

●神奈川県第1

285 泉秋寺 様
312 保福寺 様

●神奈川県第2

2 西有寺 様
21 東照寺 様
77 龍寶寺 様
93 曹源寺 様
126 常泉寺 様
394 長尾寺 様

●神奈川県

中野東禅 様

●埼玉県第1

161 建福寺 様
181 長光寺 様
189 清善寺 様
190 廣徳院 様

●埼玉県第2

204 善仲寺 様
256 豊泉寺 様
283 長泉寺 様
572 常楽寺 様

●群馬県

3 龍海院 様
15 天増寺 様
20 竹芳寺 様
83 常仙寺 様
97 元景寺 様
111 雲林寺 様
144 雙松寺 様
166 光性寺 様
184 玉巖寺 様
194 善宗寺 様
317 心洞寺 様

●栃木県

47 繁桂寺 様
66 芳全寺 様
85 長谷寺 様
92 泉溪寺 様
167 興福寺 様

●茨城県

41 大雄院 様
92 宝積寺 様
145 性山寺 様
146 長信院 様

160 定林寺 様
182 龍心寺 様
197 長龍寺 様

●千葉県

7 満蔵寺 様
9 東昌寺 様
29 慶林寺 様
35 海福寺 様
57 大隆寺 様
58 浄泉寺 様
93 芳泰寺 様
95 寶應寺 様
133 永昌寺 様
198 太高寺 様
200 善福寺 様
243 最勝福寺 様

●山梨県

115 海潮院 様
182 禅林寺 様

●静岡県第1

7 元長寺 様
109 玉泉寺 様
138 龍興寺 様
202 先照寺 様
208 延命寺 様
463 栄昌寺 様
464 正泉寺 様
551 成道寺 様

●静岡県第2

228 耕月寺 様
237 洞天寺 様
269 叢林寺 様
329 永昌寺 様
346 東大寺 様
362 福泉寺 様
368 曹洞院 様

●静岡県第3

585 成因寺 様
608 養勝寺 様
676 孤雲寺 様
716 龍登院 様
766 正法寺 様
791 春林院 様
919 定光寺 様
989 観音寺 様
1185 満願寺 様
1245 長光寺 様

●愛知県第1

15 大光院 様
82 成福寺 様
101 成福寺 様
144 白毫寺 様
166 東陽寺 様
182 観昌寺 様
255 林光院 様
313 長松寺 様
317 常観寺 様

354 廣濟寺 様
603 蔵圓寺 様
607 林宗寺 様
1088 地藏寺 様
1098 薬師寺 様

●愛知県第2

684 花井寺 様
812 龍拈寺 様
813 全久院 様
820 祥雲寺 様
841 育清院 様

●愛知県第3

428 寶珠院 様
431 報恩寺 様
498 神後院 様
562 慈光院 様

●岐阜県

167 正宗寺 様
219 勝林寺 様
240 林陽寺 様

●三重県第1

24 一心院 様
37 四天王寺 様
246 宝泉院 様
269 大蓮寺 様

●三重県第2

380 安楽寺 様

●京都府

26 岩屋寺 様
236 善光寺 様
355 龍猷寺 様
367 福昌寺 様
389 萬福寺 様

●大阪府

5 臨南寺 様
26 天徳寺 様
61 大廣寺 様
64 自性院 様
大阪有道会 様

●奈良県

68 景德寺 様

●兵庫県第1

2 満福寺 様
9 三宝院 様
12 妙香寺 様
287 向榮寺 様
302 月照寺 様
439 誕生寺 様

●兵庫県第2

160 瑠璃寺 様
173 瑞雲寺 様
224 善勝寺 様
235 神光寺 様

●岡山県

131 済渡寺 様

●広島県

8 聖光寺 様
13 延命寺 様
46 雙照院 様
52 請福寺 様
102 潮音寺 様
143 常林寺 様
158 西福寺 様
164 妙楽寺 様
175 雲龍寺 様
181 東明寺 様

●山口県

25 弘濟寺 様

●鳥取県

17 普含寺 様
163 雲光寺 様

●島根県第2

45 禅覚寺 様
63 龍覚寺 様
70 完全寺 様
77 本覚寺 様
78 全隆寺 様
93 法恩寺 様
144 福知寺 様
159 源入寺 様

●高知県

4 吉祥寺 様

●愛媛県

32 清盛寺 様
93 長命寺 様
111 大通寺 様
146 興雲寺 様
157 明光寺 様

●福岡県

77 太養院 様
158 報恩寺 様

●大分県

81 善幸寺 様
82 多福院 様

●長崎県第1

25 天祐寺 様
26 鏡圓寺 様
78 宝泉寺 様

●熊本県第1

13 浄国寺 様
60 含蔵寺 様

●熊本県第2

122 國照寺 様

●宮崎県

49 如法寺 様

●長野県第1

12 松巖寺 様
57 長秀院 様
147 徳應院 様
322 守芳院 様
580 観音庵 様

●長野県第2

384 宗湖寺 様
395 長久寺 様
400 長久寺 様
406 廣澤寺 様

●福井県

227 大光寺 様
283 城腰寺 様

●富山県

46 祇樹寺 様

●新潟県第1

342 光照寺 様
358 円光寺 様
382 光照寺 様
393 曹源寺 様
439 林興庵 様
451 正圓寺 様
496 長楽寺 様
768 大仙寺 様

●新潟県第3

530 花栄寺 様
571 轉輪寺 様

●新潟県第4

53 英林寺 様
186 龍澤寺 様
196 香伝寺 様
228 雲泉寺 様
265 東林寺 様
288 宝蔵寺 様

●福島県

2 長楽寺 様
3 陽林寺 様
17 慈徳寺 様
29 長勝寺 様
45 高国寺 様
46 龍傳寺 様
79 西松寺 様
90 明光寺 様
101 成林寺 様
103 小国寺 様
110 龍徳寺 様
165 月心院 様
175 天澤寺 様
187 観照寺 様
235 宗徳寺 様
265 法輪寺 様
277 海獄寺 様

加盟団体 活動 レポート

福島の子どもたちに、 自然とふれあう、思い出深い夏休みを！

福島子ども支援プロジェクト

3日目、早朝より法光寺様で坐禅や法話を体験後、30分食べ放題のブルーベリー狩りを行い待ちに待った屋内プールへ移動。初日から最終日まで休む暇なく動き続けて来たとは思えない程の元気の良さでプールを終え、お土産を沢山買って全日程を無事終了いたしました。

文／全曹青広報委員 鬼頭大輝

青森県曹洞宗青年会

こども自然ふれあい広場

in なんぶ

7月28日～30日にかけて、「こども禅サマー合宿inなんぶ」と題し青森県南部町において開催されました。初日は福島県の「オー

ル東山学童野球スポーツ少年団」と共に5時間のバス移動を経て宿泊施設に到着、同所において開講式が行われました。昼食には青森県曹洞宗青年会の方がたに準備していただいたパーベキューをご馳走になり、会場には早くも子どもたちの笑顔が満ち溢れていました。その後、名久井小学校へ移動し、楽天イーグルス・ジュニアヘッドコーチ補佐を務める、中濱裕之氏をお招きして野球教室を開催。継続する事の大切さ、周りの人に対する感謝の気持ち、絶対に諦め

ない強い思い等、中濱氏がプロ野球生活で学ばれた事を織り交ぜながら1時間以上に亘りプロの技術を教えていただきました。

2日目、早朝より南部弁ラジオ体操を行い標高615メートルの名久井岳山頂を目指し登山開始。途中、大人でも登るのをためらう程の急な斜面など難所続きの登山道で子どもたちの元気の良さに付いて行けなくなる引率者が続出しましたが、天候にも恵まれ無事全員登頂成功しました。下山後、



宿泊施設に隣接する広場でポニーの乗馬体験をし昼食には流し蕎麦を体験。登山でよほどお腹が空いたのか、しばらく下流に蕎麦が流れて来ることはありませんでした。昼食後、南部町ふれあい運動公園野球場に移動し地元の少年野球チーム「名久井クラブ」と2試合行い、早朝に登山をしたとは思えない機敏な動きや子どもたちの野球に対する真剣な眼差しを見ることが出来ました。夜には北海道銀河の森天文台主任寛伸浩氏をお招きし、専門の望遠鏡を使い土星などの天体観測。偶然的流れ星に歓喜の声があがり夜空の星々同様、子どもたちの目も輝いてみえました。



曹洞宗長野県第一宗務所青年会 福島こども自然ふれあい広場 in 長野 2014

7月28日から31日の日程で、長野県野沢温泉村・木島平村・山ノ内町を舞台に開催されました。昨年に続き2回目の開催で、再び長野に来てくれた子どもを含めた福島から



の参加者が保護者・引率含め30名、夏の長野県を訪れました。

初日は福島駅からバスで野沢温泉村に移動。麓からゴンドラリフトに乗って標高1,300mのキャンプ場へ。ここでバーベキュー、花火、キャンプファイアを楽しみ、バンガローで宿泊しました。

2日目は木島平村の子どもたちと合流し、キャンプ場から3キロほど森や高原の中をトレッキング。バス移動の後、内山手すき和紙体験の家では、2人1組になって手形の入った和紙を共同で作り、山ノ内町の歓迎式の後にはダンススクールの生徒さんと交流、夏祭りでは太鼓グループの演奏に参加しました。

3日目は自然教室でのコカリナ（東欧の民族楽器）作りの後、山ノ内中学校で小澤

征爾さんと教え子の方がたによるコンサートを鑑賞。地獄谷野猿公苑では、公苑内に生活するサルたちが足元や目の前を通る珍しい経験ができました。

4日目の善光寺参拝が終わると、長野新幹線と東北新幹線を乗り継いで福島に到着、3泊4日の日程を終えました。全日程を通して晴天に恵まれ、地元の関係団体のご尽力、地

元小学校やダンススクールの子どものご協力によって、スタッフ一同も楽しく参加者とともに過ごすことが出来ました。雨で日程変更となった昨年より歩く距離が増え大変でしたが、参加者の皆さんも自然の中、たくさん遊んでたくさん学べたと思います。参加していただいた皆さん、ありがとうございました。

文／長野県第一宗務所青年会

全曹青広報副委員長 宮入真道

四国地区曹洞宗青年会 第3回 こども自然ふれあい広場 in 高知

7月22日～25日までの4日間、高知県で四国管区教化センター主催の『こども禅

キャンプ』と併催されました。福島の子どもたち20名、四国の子どもたち20名が参加しました。

1日目は、飛行機で龍馬空港に到着し、空港見学をしました。その後、香北青少年の家に向かい、四国の子どもたちと合流しました。開会式、オリエンテーションの後、忍者大会を行いました。移動の疲れも感じさせないぐらい、みんな元気に走りまわっていました。夕食・入浴の後、翌朝からの坐禅の仕方を教わり、各部屋に分かれて就寝しました。

2日目は、6時に起床し、坐禅・朝のお勤め、布教師の方のお話、朝食、掃除を行いました。その後、グラウンドでスナッグゴルフ、サッカーをしました。ゴルフでは、池田勇太プロらの指導のもと、悪戦苦闘しながら挑戦していました。サッカーでは、地元の方と交流しながら楽しく遊んでいました。午後からは、川遊び。ずっと暑い外での活動でしたが、子どもたちは元気いっぱい遊びました。そして、徳田選手のフリースタイルフットボールの実演を見ました。あまり間近で見る機会もないの



で、みんな興味深く見入っていました。

3日目は、朝6時に起きて、坐禅・朝のお勤め、布教師の方のお話、朝食、掃除を行いました。JALの方と一緒に、よく飛ぶ紙飛行機を作り、元気に飛ばしていました。閉会式（禅キャンプ終了証授与式）の後、四国の子どもたちに見送られて、夜須に向かいました。NPO法人YASU海の駅CLUBの方の指導でシーカヤックをしました。波が高く不安でしたが、みんな上手に乗りこなし、笑顔いっぱい満喫していました。

楽しかった当事業の最終日。子どもたちは最後の最後までみんな元気いっぱいでした。スタッフ一同、飛行機が見えなくなるまで手を振っていました。過密日程でしたが、スタッフが元気をもらいうぐらい、何事にもみんな楽しんでくれていました。この4日間の子どもたちの笑顔は忘れられません。

当事業にご賛助いただいた各御寺院、各団体、多くの皆さまに厚く御礼を申し上げます。

文／四国地区曹洞宗青年会

全曹青広報委員 井上一 洗

水と緑と輝く笑顔 子ども自然ふれあい広場 in くまもと

福島から参加する子どもたち16名・保護者6名を迎え、8月18日～22日（4泊5日）



の行程で、天草市のイルカが住む海に浮かぶ通詞島にて開催しました。実行委員会を組織し会議・準備を幾度も行ったものの、実際に福島の方と顔を合わせるまで不安な気持ちでしたが、飛行機から降りてくる元気な姿（少し緊張した顔）を見て少しホッといたしました。到着翌日、朝起きたら海岸を散策してのイルカウォッチング。約30頭の野生のイルカの群れに興奮する子どもたち。本事業には『子ども禅の集い』を併催し、36名の熊本の子どもたちが加わったの坐禅体験、そして雨の中の海水浴を行いました。その日の夕食後の交流スタンプラリーでは一緒に大盛り上がり！やはり子どもは子ども。そんな当たり前のことが本当に嬉しかったです。同じ空間で時間を過ごしているうちに最初は硬かった子どもたちも少しずつ馴れ、距離が近くなっていました。佛陀のご加護を賜り、天気予報を覆す晴天の中、透明度の高い海での海水浴では、高らかな笑い声が響く中、宝探しで見つけた『親からの手紙』に言葉を失くす



子どもたち、そして、その光景を見守る保護者の皆さんの眼差し…。流れる涙に現実の厳しさを察しました。浄土真宗寺院でのバーベキューでは開放的になったのか、野球をやっている上級生たちは「福島で頑張る甲子園に行きます」と



笑顔で話してくれ、福島を背負っていくようたくましく見えました。最後の夜、引率の方から「こんな一体感は初めてです」、保護者の方から「自分たちで出来ない経験を沢山させていただきました」、子どもたち代表のお礼「今日のことは一生忘れません。今

度は福島と熊本をつなぐ支援スタッフとして頑張りたい」という言葉をいただき、開催して良かったと心底思いました。本事業のテーマであった「輝く笑顔」はどうやら達成されたようだと感じました。今回感じたことは、「大人も一緒に楽しむことが大事」であること。それが全体としての一体感に繋がったと思います。熊本曹青として、県内寺院ならびにお檀家さまからのひとかならぬご協賛、また、各会員がそれぞれの役割で力を発揮し、「大衆の威神力」を紡ぎ出して実現できたことに只々感謝申し上げます。合掌

文／熊本県曹洞宗青年会

評議員 永野英寿

九州曹洞宗青年会
日めくり伝道句集「生命の力」
頒布開始の御案内

日めくり伝道句集「生命の力」がついに完成いたしました。昨年の春に作

製準備を始め、九州各地の会員の皆様方の御協力を得て作製を進めていた全く新しい日めくり伝道句集が、いよいよ頒布開始の段を迎えました。

あまりにも一人一人の生命が軽んじられ、ないがしろにされたり、また、大自らの前で生命のはかなさ、もろさを思い知らされる昨今、一人一人の生命の重さ、自然の中で育まれる生命の神秘、人と人、人と自然がつながっている有り難さ等、生命の真の姿を今一度振り返るきっかけになるようなものを作りたいとの一念で、日めくり伝道句集を作製してまいりました。

伝道句については、日めくり伝道句集作製委員会で各自言葉を選び出し、数百の言葉が集まった段階で、メールで選抜総選挙を行い、その中で投票数が多かったものを中心に言葉を選出してまいりました。

写真については、身近な自然の写真を中心に据え、九州各地の風景等も交えながら、山あり川あり、水中写真ありと、毎日めくって使い続けても飽きないような構成になっ

ております。

文字については、活字よりも本物の書がいいだろうということで、新進気鋭の書家竹林加世子さんに揮毫を依頼しました。

加世子さんは、中華人民共和国浙江省杭州市「中国美術学院」(2011年に世界遺産に登録された西湖のほとりにある世界でも有数の美術学校です)で本格的に書学ばれた方で、現在、熊本県天草市観音寺寺族としてご活躍中です。

加世子さんは、「言葉を読んだ方が、ただ読むのではなく、色んなことを感じながら読んで下さるよう、一つ一つの言葉の意味を考えながら、一文字一文字に命を吹き込んで書いたつもりです」とのコ멘トを寄せられています。

九州曹洞宗青年会は、「九州は一つ」「生きる力・命の力を取り戻す」という今期のスローガンのもと、ひた走っています。

是非、皆様にも、日めくり伝道句集「生命の力」を手にして、生きる力・命の力を取り戻してもらいたいと思っております。

日々を生き抜く「心の糧」に、生命を振

り返る「きっかけ」に、仏教に関心を持ってもらう「縁」に、是非、日めくり伝道句集「生命の力」をご活用下さい。

文／九州曹洞宗青年会

会長 田中光顕



卒展作品の前で担当教授と共に。右が竹林さん。



味来食堂

みらいしょくどう

ソウジヨク
僧食を学ぼう！

北 国出身の私としては、9月の東京の残暑も耐え難い。前2回は雨のなかでの開催であったが、今日は曇天ではあるものの、湿らずに済みそうだ。が、余計に蒸し暑さを感じる。

午後3時に恵比寿駅東口に集合し、打合せの後、午後5時に会場である恵比寿Sorisoに至った。仕込みであるが、今回は前2回の反省も踏まえ、なるべく受講者のお手を拝借する段取りである。前2回の受講者から、「もつと実際に料理に携わりたかった」とのご意見をいただき、今回は受講者を2班に分けての教室である。

今回は統一メニューである、精進出汁・豆腐マヨネーズ・豆乳ごまプリンのほか、けんちん汁・きのこゴハン・コールスローサラダである。仕込みを終えて受講者を待つ、なぜか毎回緊張の瞬間である。前2回の受講者からは、仕込みに夢中な姿に近寄り難い雰囲気を感じたらしく、今回は笑顔での挨拶、大きな声での挨拶を心掛けた。そして、いよいよ定刻の19時10分。いつものながら、私の法話からのスタートである。今回のメニューであるけんちん汁を中心に

精進出汁の説明をし、スパイスに禅を和えてのプチ法話、いつもながら締りが悪い。精進出汁の説明のあと、実際にけんちん汁と、プリン・マヨネーズ班に分けて調理を開始。すごい盛り上がりだ、受講者の熱い視線と質問が、スタッフの頭部に注がれる。班分けの為か、スタッフと受講者の距離が近く、なぜかハラハラする。今回は宗務庁人事部広報係からも実際に調理に参加いただいた。

調理予定時間を過ぎ、実食である。参加者一同、けんちん汁の味に感動、精進出汁と若干の塩での味付けである。「ゴボウの味が新鮮」や、「案外簡単」の声を聞いた。また、きのこゴハンでも同様な感想が寄せられた。今回は実際に受講者が調理に参加したことより、受講者の満足感が大きく、私が最も欲している、「これなら家でも作れる」との言葉を多くいただいた。第3回までの経験は得難いものであり、この経験をもとに次回・次々回の『味来食堂』の準備を怠りなく進めていく思いである。

文/40周年記念事業実行委員会

委員長 荒木道宗

曹洞宗僧侶の有志による電話相談窓口です



ひとりぼっちと思わないで…
どんなことでもお電話で
ご相談下さい。

Tel 080-1546-7464
Tel 080-1547-5646
毎週日曜 22:00 ~ 24:00
※相談料は無料(通話料は必要です)

両大本山御用達
梅花流法具販売指定店

法衣・装束・荘厳・神仏具・贈答用記念品

株式会社 梅金商店

(全国曹洞宗法衣同業会会員)

〈本社〉〒460-0011 名古屋市中区大須三丁目39番33号
(大須交差点東北側)
TEL(052)241-0901(代表) FAX(052)241-1904



全日仏青 ニュース

平 成26年8月29～31日、台湾各地において台湾仏教青年会(Chinese Young Buddhist Association: CYBA)創立25周年

大会が盛大に開催されました。また25～31日には青少年の国際交流プログラムであり、世界仏教徒青年連盟(WFBY)の継続事業である国際仏教徒青年交換プログラム(BBYE)も、時期を合わせて併催されました。

日本から15名の参加を得たこの度の大会並びに交流プログラムのテーマについて、台湾の招待状には「台湾グラマラスパワーとの出会い、慈悲と智慧の旅」とありました。その言葉の通り、様々なフォーラム、活発に活動する仏教財団や大規模な寺院訪問を通じて、台湾社会と密接に繋がる仏教、及び仏教会の力を感じただけではなく、台湾仏

全日本仏教青年会

(JYBA: All Japan Young Buddhist Association)とは

全日本仏教青年会は、9宗派(天台宗・金峯山修験本宗・和宗・真言宗・浄土宗・融通念仏宗・臨済宗・曹洞宗・日蓮宗)の全国青年会と4地域(埼玉県・神奈川県・大阪府・神戸)の都道府県レベル地域青年会の連絡協議体であり、その加盟団体1つより選出された理事長を中心に、全加盟団体の会長、副会長、事務局長等を副理事長、理事として組織される理事会により意志決定が諮られる日本最大の仏教青年会です。その目的の一つは、宗派・地域の垣根を越えた全国の青年僧侶の連携であり、そのネットワークによって成り立つ時代に即応した仏教青年会活動の運営です。そしてもう一つの目的は、All Japan Young Buddhist Association (JYBA) として、16カ国42団体が加盟する世界最大の仏教青年会である世界仏教徒青年連盟(World Fellowship of Buddhist Youth: WFBY)の唯一の日本センターを務め、全宗派を通じた日本を代表する仏教青年会として、海外の仏教徒と深く交流し、全世界に広く仏教文化と智慧を発信・継承し、人々の幸せと世界平和の進展に寄与することにあります。

■加盟団体一覧■

[宗派全国仏教青年会] 天台仏教青年連盟・金峯山青年僧の会・和宗仏教青年連盟・全真言宗青年連盟・全国浄土宗青年会・融通念仏宗青年会・臨済宗青年僧の会・全国曹洞宗青年会・全国日蓮宗青年会
[地域(都道府県)仏教青年会] 埼玉県佛教青年会・神奈川県佛教青年会・大阪府佛教青年会・(一社)神戸青年仏教徒会
(全日本仏教会加盟録順)

全日本仏教青年会(JYBA)公式ホームページ
<http://www.jyba.ne.jp/>

世界仏教徒青年連盟

(WFBY: World Fellowship of Buddhist Youth)とは

世界仏教徒青年連盟WFBYとは、未来を担う青年たちの仏教に対する理解を広め、深める事を目的に結成された国際ネットワークです。1950年設立された世界仏教徒連盟WFB(World Fellowship of Buddhist)の第10回世界仏教徒会議において、1972年5月正式に発足しました。現在では16ヶ国、42の仏教団体が会員として加盟する世界最大の国際仏教青年会に成長しています。

WFBYは、交流プログラムやリーダー育成研修などの活動を通じ、世界中の青年仏教徒の交流を促進すると共に、仏教に基づいた人材の育成に取り組んでいます。また、青年を対象とした活動だけではなく、青年を指導する人々のためのプログラムも実施しています。

日本では、全日本仏教青年会がJYBA (All Japan Young Buddhist Association) としてWFBYに加盟し、日本国内唯一のセンター(Regional Center)として各国の青年仏教徒との交流を深めつつ、世界平和への貢献と仏教の宣揚を目的に活動しています。

世界仏教徒青年連盟(WFBY)公式ホームページ
<http://www.wfbtoday.org/>

台湾仏教青年会 25周年大会について

教の高い国際的ブランド性にも触れることが出来ました。そして、この貴重な機会をもって私たちが特に思ったのは、日本もまた、アジア仏教界並びに国際社会において、日本仏



教の特長・有意性・ブランド性を、さらに積極的に発信していかなくてはならないのではないかと意識することでした。
アジア諸国の経済的立ち位置の転換に伴い、企業競争力だけでなく、国家のアイデンティティである文化や宗教のブランド性も日々変化しています。その変化に呼応するかのように先日、文科省ではスーパーグローバル大学(SCU)の公募や、TOEFLなど民間試験を大学入試に活用するとの提言が行われました。急速な国際化が進む日本において、当たり前前に英語を話す時代が到来するだけでなく、一般の青年がアジアの国々に居住することは珍しいことではなくなると推測できます。戒律主義の仏教が生活の中に生きるそのアジア諸国で生活する

ル大学(SCU)の公募や、TOEFLなど民間試験を大学入試に活用するとの提言が行われました。急速な国際化が進む日本において、当たり前前に英語を話す時代が到来するだけでなく、一般の青年がアジアの国々に居住することは珍しいことではなくなると推測できます。戒律主義の仏教が生活の中に生きるそのアジア諸国で生活する

日本人が培う仏教観や、日本仏教に対する認識が、日本仏教界や日本社会に持ち込まれていく影響を考えると、日本仏教の確固たる地位と意味をさらにアジア国際社会に築くとともに、次世代青年僧侶の活躍の場を築くのは急務であると考えます。

奇しくも平成26年10月13～19日開催された世界仏教徒連盟(WFB)・世界仏教徒青年連盟(WFBY)世界大会総会において、来年3月、大本山總持寺を会場として開催される「全国徒弟研修会」国際子供禅の集い」を含む交流プログラムが、WFBY公式事業BBYEとして承認されました。この度の機会を、全国徒弟の皆様方にとって最高の研修とすることはもちろんのことながら、日本仏教の良さと曹洞禅の素晴らしさをアジア社会にさらに伝え、次世代のための国際舞台を創造する大きなチャンスの一つともとらえ、全曹青あげてその運営に邁進する所存です。
文/世界仏教徒青年連盟副会長 村山博雅

全曹青40周年

全曹青の足跡を訪ねて(6)



全曹青は、1975年に発足し、今期には40周年を迎えます。このコーナーは、記念の節目を迎えるにあたって、改めて全曹青の成り立ちや規模、その想いや歴史を探っていく連載です。

■第六期の発足

昭和60年度(1985年～86年)の第一回総会で、吉岡棟憲会長を選出し第六期全曹青がスタートした。

第五期から続く研修テーマとして「食」を掲げながら、全国的な組織の拡充と連絡協議体組織としての機能を内外より期待されていた事が、当時の『曹青通信』の誌面における各地方曹青会の活動報告・紹介の多さにも窺える。当時は各曹青会対抗のソフトボール大会も盛んに開催され、近隣曹青会との親交を深める機会を設けながら、未加入の曹青会にも活動への理解と団体加入を働きかけていた。昭和62年に発刊された『曹洞宗青年会名簿』(全国版)には、加盟曹青36団体、個人加入者や未加入ながら名簿提出のあった団体を含めると47団体3,600名余りが網羅され、全曹青の組織としての充実を感じさせる。

■外へと目を向ける

曹洞宗ボランティア会(現在の「公益社団

法人シヤンティ国際ボランティア会)など

関連団体との連携をはじめ、宗門の外に目を向けた活動も多くなった。曹洞宗ボランティア会や全国青少年教化協議会、全日本仏教青年会の活動紹介をはじめ、『曹青通信』第38号からは新コーナーとしてインタビュー企画「散歩道」を開始。南こうせつ氏(歌手)、原辰徳氏(当時読売ジャイアンツ選手)、塚本三郎氏(当時民社党中央執行委員長)、三遊亭円楽氏(五代目)ら芸能・文化・政治の著名人へのインタビューを行い、それぞれがお寺に持つイメージ、仏教への提言や期待などをお話しいただいている。研修内容も初の試みとなるものが多かった。

昭和61年4月2日から3日に開催された「第七回禅文化学林」(場所・掛川生涯学習センター、東海曹洞宗青年会第九回大会と併催)では、花祭りをテーマに鈴木泰山老師・酒井大岳老師の講演に加え、お茶の接待や積尊一代記の揭示、南こうせつ氏によるコンサートも併催され、多くの一般の方

がたも参加し大盛況となった。またこの日に合わせ開かれた仏舍利塔「掛川平和塔」の落慶法要とその後の白象を引いての稚児行列では、当地仏教会各宗派の僧侶の鳴らす鼓の音、幼稚園児の鼓笛隊に合わせお稚児さんが掛川市内沿道を歩き、宗派・僧俗一体の行列となった。

昭和61年5月12日から13日に開催された「昭和六十一年度前期禅の集い中央研修会」(場所・曹洞宗宗務庁)では、初日に「ゲーム指導について」と題し、青少年への教化活動に資する実際のゲームを通し、言葉遣いや服装まで留意が必要という細やかな研修。2日目は新宗教の見学として立正佼成会を見学、概要説明や青少年部の活動紹介を受けた。バス1台では収まらないほどの参加者や活発な質問など、注目の高い研修であった。

昭和62年1月26日から2月2日には「第八回禅文化学林 スリランカ仏教遺跡研修の旅」を開催。当時の大本山永平寺貫首丹羽康芳禪師の御巡錫を得て、116名もの参加者が空路スリランカに向かった。丹羽禪師とスリランカ国との長年に亘る交流もあり、入国審査の簡素化や大統領官邸での謁見など現地の様々なご協力をいただきながら、多くの寺院を歴訪した。「遺跡」研修と銘打ってはいたが、開催レポートに記さ

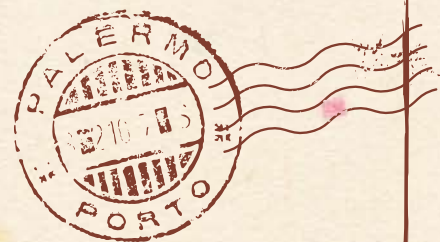
れているように、この旅行はスリランカの僧侶や仏教徒との出会いによって彼らの生活や信仰、精神を学ぶ「文化」研修だったようである。日によっては千人を超える熱烈な歓迎を受けたり、またある日は現地僧侶とのディスカッションの中で「日本の僧は妻帯をし、肉食をし、とても僧とはいえない」(レポート原文ママ)と厳しい言葉をいただいたようである。



第六期は吉岡会長の下、未加盟団体への呼び掛けや加盟団体同士の交流を通して組織としての充実を図り、一方で『曹青通信』や研修会の中に新風を取り込む、非常に発展性の高い時期だったように感じられます。一方、社会的には昭和60年8月12日に日航機が墜落し、地元曹青や仏教会の許可を得て慰霊法要に参加するなど、緊急の事態に対し自分たちに何が求められ、何が可能かを模索する時期でもありました。

文／全曹青広報副委員長 宮入真道

災害復興支援部 ニュースレター



「平成26年8月豪雨」において被災されました方には、心よりお見舞い申し上げます。また支援活動に従事され、いままお活動されております曹青会会員諸師におかれましては、深く敬意を表します。

近年、全国各地では毎年のように災害が起こっています。先の東日本大震災を経験し、多くのことを学び、それを生かし、日頃より備えをしているつもりでも、いざ災害が起こると、その都度変わる災害の性質に右往左往している現状があります。情報社会の現代においても、被災地の見える部分と見えない部分があり、必要な情報を把握できないで、歯痒い思いをしている方も少なくないかと思えます。支援部では、即時に被災地の現状、社会福祉協議会によるボランティアセンターの開設等、情報を随時確認できる災害メーリングリストの構築に力を注いでいます。今後起こり得る災害に対しても、できるだけ多くの情報を皆で共有し、支援活動に繋げるべきであると感じました。改めて、一人でも多くの会員諸師に全曹青災害メーリングリストに登録をお願い申し上げます。

「子ども自然ふれあい広場」が今年は青森県・長野県・高知県・熊本県の4ヶ所にて開催されました。福島の子どもたちは原発事故の影響で、自由に屋外で遊ぶ時間がない状況が、いままお統していることは、周知のことと思います。その中で、毎年行われるこのイベントは、子どもたちに、思いつきりと夏の思い出を経験させてあげ



られていたのではと感じております。ご協力いただきました、曹青会の皆様、地域の皆様には、子どもたちが変わりまして、御礼申し上げます。
最後に、災害により犠牲になられた方がたのご冥福と、被災地の早期復興を心より祈念いたします。

文／全曹青副会長兼

災害復興支援部コーディネーター

膝館晋哉

災害MLは全曹青ホームページ『般若』からご登録いただけます。 <http://www.sousei.gr.jp/>

守り伝えられし大切な伽藍、
私どもの技と経験がお役に立てれば幸いです。

社寺建築のカナメ

新築・改修・屋根工事・耐震



■ 本社 栃木県宇都宮市平出工業団地38-52 電話：028-663-6300
■ 名古屋支店 愛知県一宮市森本4-15-23 電話：0586-71-2882
■ 岡山営業所 岡山県岡山市北区今8丁目13-13 電話：086-245-2541

編集後記

かけがえのない時間ってあります。思い返すとその時間は、いつも過去のもので。地元のある先輩僧侶と奥様、心のこもったおもてなし。美味しい食事と楽しい会話。とても充実した時間でした。

こんな私に、ここまでしていただけるなんて・・・。ふと、一人になりあの時のことを思い出すと、急に体が軽くなり、「よし、今日はクタクタになるまで作務をしよう」。作務を終え、見慣れた庭を目の前に、自分の生活を振り返ると、何気ない普段の日常も、かけがえのない時間だったと気付きます。浮き沈みする心、思い通りにならないこと、それらが浄化された気がしました。

そんな思いに浸っていると、無邪気に家中を走り回る4歳の息子（自称：仮面ライダー）に見つかり、何度も叩かれました。これもかけがえのない時間・・・？

いずれは、息子にもかけがえのない時間を作ってあげたいとは思いますが、それはまたの機会にして、とりあえず隠れます・・・。

(全曹青広報委員 田中昭範)

■表紙の話

いよいよ、来る3月に「全国徒弟研修会 with 国際子ども禅のつどい」が開催されます。今回の表紙は、雲水が行脚するいつものシリーズをお休みし、全国徒弟研修会のチラシと連動した表紙といたしました。

そのモデルを務めてくれたのが、櫻井賢尚さん。少し大きめの綱代笠をかぶり、ちょっと背伸びした小僧さん役を一生懸命務めてくれました。

青年僧侶の役割の一つが、次の世代の僧侶を育成すること。今回の全国徒弟研修会をきっかけに、次代を担う子どもたちが、徒弟としての使命に目覚め、すくすくと育ち、日本のみならず世界にはばたいていくことを願ってやみません。

協力：静岡県浜松市 栄林寺
デザイン：HIYAMA DESIGN ROOM

全曹青創立40周年・四国曹青創立30周年記念 禅文化学林四国大会のお知らせ 共に生きる

～ミュージカル「ブッダ」を通じて復興支援を考える～

平成27年 **3月3日(火)・4日(水・友引)**
松山市民会館 (愛媛県松山市堀之内)
大和屋本店 (愛媛県松山市道後湯之町)

日程(予定)

- 第1日目：3/3(火)
12:30 開場(松山市民会館)
13:30 仏祖諷経
14:00 記念イベント
劇団わらび座 ミュージカル「ブッダ」公演
16:30 道後・大和屋本店へ移動
18:30 交流懇親会(大和屋本店)
- 第2日目：3/4(水)
9:00 ワークショップ・グループ討議(大和屋本店)
12:00 閉会式

大会の詳細や申込書は、各曹青会の評議員にお送りいたします。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

主催／全国曹洞宗青年会・四国地区曹洞宗青年会



お問合せ

実行委員長 高木 一晃

愛媛県西条市小松町明穂 興雲寺 TEL 0898-72-2937